

2010年8月10日

外務大臣
岡田克也 殿

「日本のODAを変える会」
発起人一同

「ODA改革:5つの提言」のご送付
——マルチステークホルダーの有志による提言——

拝啓 ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

私たちは、新時代の日本のODAを考えようと、所属する組織の利害を超えて集まった有志です。ODAにかかわる様々なステークホルダー(政界、マスコミ、NGO、産業界、コンサルタント、学界、官界、援助実施機関等)がお互いの問題意識や情報を交換し、日本のODAが抱える問題を共有し、今後どのように変革していくのかを議論しようと集まった集団です。

日本のODAは大きな変革期にあります。私たちは、岡田外務大臣のイニシアティブのもとで外務省が開始した「ODAのあり方に関する検討」に大きな期待を寄せ、この動きに建設的に貢献したいとの思いで、2010年2月から6月にかけて5回会合を開催し、集中的に議論を行ってきました(会合には政界を含め、延べ約300名が参加)。

今般、会合での議論をふまえて、「ODA:5つの提言」をとりまとめましたので、岡田外務大臣に送付申し上げる次第です。これは、日本のODAを「21世紀型の開発協力」に脱皮させるために、今何から着手すべきか、という観点に焦点をあてた、行動提起型の提言です。外務省が6月末にとりまとめた「ODAのあり方に関する検討」と問題意識を共有しつつも、私たちの会合で関心を集めた、強力な司令塔機能や、既存の組織を超えて課題別に戦略的ネットワークを構築する必要性(官官協力と官民協力にもとづく連携、オールスターチーム、シンクタンク機能等)を強調した内容になっています。

去る7月28日には、前外務副大臣をお務めになった福山内閣官房副長官、および外務省の佐渡島国際協力局長にもご参加いただき、「提言」の報告・意見交換会を開催しました。福山副長官や佐渡島局長から積極的な賛意が示されたほか、約80名の参加者のもと、私たちの「提言」と外務省の「検討」との補完性を含めて、活発な議論が展開されました。

多様なステークホルダーが参集し、援助現場をふまえた率直な意見交換から生まれた「声」を、岡田大臣にお届けしたく、この「提言」を送付申し上げる次第です。今後、「提言」が実行され、政府が取り組む「ODA改革」の実施に反映されることを強く願っています。必要あれば、喜んでご説明に伺いますので、いつでもご指示頂ければ幸いです。

敬具

発起人一同

浅沼信爾

浅沼信爾 一橋大学客員教授

荒木光弥

荒木光弥 国際開発ジャーナル主幹

稲場雅紀

稲場雅紀 「動く→動かす」事務局長

大崎麻子

大崎麻子 開発政策・ジェンダー専門家

福井龍

福井龍 世界銀行東京開発ラーニングセンター
マネージャー

山田太雲

山田太雲 (特活)オックスファム・ジャパン
アドボカシー・マネージャー

小嶋雅彦

小嶋雅彦 国際協力機構上席秘書官

大野泉

大野泉 政策研究大学院大学教授

同封物: 「日本のODAを変える会」提言書、概要資料

別添1: 「日本のODAを変える会」趣旨と目的

別添2: 過去5回の会合テーマと話題提供者

別添3: 「提言」報告・意見交換会アジェンダ、出席者リスト

「日本の ODA を変える会」
(趣旨と目的)

- 私たちは、新時代の日本の ODA を考えようと、所属する組織の利害を超えて集まった有志です。ODA にかかわる様々なステークホルダー(政界、マスコミ、NGO、産業界、コンサルタント、学界、官界、援助実施機関等)がお互いの問題意識や情報を交換し、日本の ODA が抱える問題を共有し、今後どのように変革していくのかを議論する場を作ろうと考えています。
- 私たちは、2007 年に同様の勉強会(サロン)を開催し、「開発の年 2008 年」(TICAD4、東京サミット、海外経済協力会議の設置、JICA と JBIC の統合等)にむけた提言として「ODA マニフェスト」を作成しました。この提言の幾つかは着実に具体化しつつありますが、ODA の基本戦略や方向性についての国民的コンセンサスは未だなく、実施体制や運営方法等についても、引き続き多くの課題があると考えています。
- このような中、民主党政権の誕生により、ODA のあり方を抜本的に見直す好機が生まれています。岡田外務大臣は、「300 日プラン」の中で、ODA の見直しを掲げていますが、今まさに「新しい日本の ODA」の骨格が決定される過程において、ODA に関与するものが英知を集めねばならない状況にあります。
- 今、日本の ODA は大きな変革期に直面しています。国際的に見れば、90 年代に世界第一位の援助大国を誇ったものの、現在は 5 位に転落。オバマ政権が軍事から開発にシフトし、中国やインド等の新興国ドナーが台頭するなど世界構造が変化する中で、日本の立つ位置が問われています。また ODA の対象分野や担い手に関しても、気候変動や脆弱国支援等のグローバルな課題が中心になり、民間企業や NGO 等のアクターの役割が大きくなってきています。
- 私たちは、それぞれ立場は違いますが、国際協力の「現場の視点」、「国民の視点」から、今一度、日本の ODA を考えたいと思います。各界の皆様にご参加いただき、活発な議論ができれば幸いです。

「日本の ODA を変える会」発起人一同

浅沼信爾	一橋大学客員教授
荒木光弥	国際開発ジャーナル主幹
稲場雅紀	「動く→動かす」事務局長
大崎麻子	開発政策・ジェンダー専門家
福井龍	世界銀行東京開発ラーニングセンター マネージャー
山田太雲	(特活)オックスファム・ジャパン アドボカシー・マネージャー
小嶋雅彦	国際協力機構上席秘書官
大野泉	政策研究大学院大学教授

テーマと話題提供者
(敬称略、当時の肩書きによる)

第 1 回 「新しい時代のODAを考える視点」(2010 年 2 月 24 日)

首藤信彦 民主党衆議院議員
荒木光弥 国際開発ジャーナル主幹
稲場雅紀 「動く→動かす」事務局長

第 2 回 「『民』主導の国際協力——多様な関係者との連携にむけた提言」(2010 年 3 月 30 日)

藤田幸久 民主党国際局長／参議院議員
佐藤寛 日本貿易振興機構(JETRO)貿易開発部 上席主任調査研究員

第 3 回 「国際協力政策のあり方、政治の役割」(2010 年 4 月 22 日)

柴崎敦史 参議院外交防衛委員会調査室 調査員
武見敬三 東海大学教授／(財)日本国際交流センター シニア・フェロー

第 4 回 「市民の参加と理解——開かれた国際協力をめざして」(2010 年 5 月 12 日)

犬塚直史 民主党参議院議員
中村絵乃 (特活)開発教育協会(DEAR)事務局長
伊佐治健 日本テレビ報道局ニュース編集部(NEWS ZERO チーフプロデューサー)

第 5 回 「アジアとの協力戦略」(2010 年 6 月 8 日)

田嶋要 民主党衆議院議員
大野健一 政策研究大学院大学教授

提言、および各会合の資料・議事録は、GRIPS 開発フォーラム(事務局)の下記の HP から
ご覧になれます。

<http://www.grips.ac.jp/forum/2010/ODAMT10/oda2.htm>

2010年7月28日

「日本のODAを変える会」

アジェンダ

プログラム

テーマ 「ODA改革:5つの提言」 ～21世紀型の「開発協力」(DC)へ脱皮せよ～

- 18:30～18:45 今までの経緯、発起人からの「提言」報告 小嶋雅彦、大野泉
- 18:45～19:05 「提言」へのコメント、日本の「開発協力」のあり方
・ 福山哲郎氏 内閣官房副長官
・ 佐渡島志郎氏 外務省国際協力局長
- 19:05～19:45 パネルディスカッション
(これまでの話題提供者、発起人も交えて討論*)
- 19:45～20:30 参加者との意見交換

【* 上記の方々に加え、次の話題提供者(50音順)と発起人も交えて討論予定】

- ・ 伊佐治健氏 (日本テレビ報道局ニュース編集部/NEWS ZERO チーフプロデューサー)
- ・ 大野健一氏 (政策研究大学院大学教授)
- ・ 柴崎敦史氏 (参議院外交防衛委員会調査室調査員)
- ・ 武見敬三氏 (東海大学教授、(財)日本交流センター シニア・フェロー)
- ・ 田嶋要氏 (民主党衆議院議員、政策調査会副会長)
- ・ 中村絵乃氏 ((特活)開発教育協会(DEAR)事務局長)
- ・ 荒木光弥氏 (国際開発ジャーナル主幹、発起人)
- ・ 福井龍氏 (世界銀行東京開発ラーニングセンター・マネージャー、発起人)

本会合のウェブサイト: <http://www.grips.ac.jp/forum/2010/ODAMT10/oda2.htm>

事務局: GRIPS 開発フォーラム